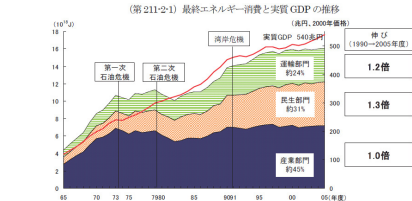


## 環境・エネルギー班 進捗状況

成岡、馮、松原、武藤、森  
(2007/6/7)

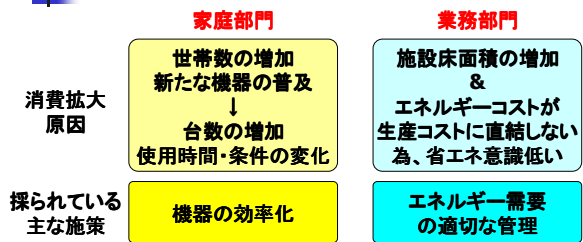
## <背景1> エネルギー消費の実体



資料：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」(年度別)、「環境省」(環境省エネルギー調査)、「財団法人エネルギー総合研究所」(エネルギー・経済統計要覧)  
(注) 1. 「サービス」=エネルギーの大きさを示す指標の一つで、LMI=0058-103の取換算値  
2. 「総合エネルギー統計」は、1990年度以降の数値について算出方法が変更されている。

民生部門=家庭部門(自家用車除く)+業務部門  
の増加が著しい(1.3倍!!)

## <背景2> 既存の省エネアプローチ



### 施策の例

- 1) トップランナー方式
- 2) BEMS/HMES (Building / Home Energy Management System)

## <問題点> 節約意識が必要

- これらの施策が有効でない場合も
  - 機器使用者に直接介入しないことが問題
  - 例えば『家庭における待機消費電力量は家庭の全消費電力の約7%を占め、その削減が省エネルギーの観点から必要 (H.18 エネルギー白書)』
- 民生部門の省エネを実現するためには、機器を扱う人間の省エネ意識を向上させる必要がある!!

## <解決策> 省エネ意識を高めるには

- 省エネ意識を高める機器の導入
  - 鍵に連動した給電システム
    - ホテルのカードキーのようなもの、消忘れ防止
  - 排他利用コンセントタップ
    - 同時利用できる口数に制限がある、考えて使わないとダメ
  - 省エネメーター
    - 平均に比べてどれだけ省エネ生活をしているか表示、周囲との“省エネ競争意識”を煽る
  - などなど
- 身をもってその効果を示します!! (予定)